

# 3つの政治改革と中央区 ~後篇~

江戸時代の後半には、天候が悪く米がほとんどとれない年が多かった。物の値段が上がり、人々の不満が大きくなっていったため、江戸幕府は、政治のやりかたを変える必要があった。

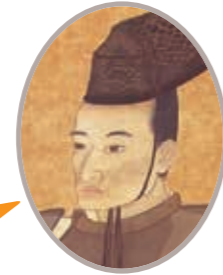
## <幕府の力を取り戻せ!>

享保の改革(→p.46)で、少しのあいだ立ちなおっていた幕府の財政だったが、また苦しくなっていた。財政を立てなおし、大名や商人に幕府の力を見せつけて全国を統治するために、さらに2つの大きな政治改革が行われた。

### 享保の改革を手本にした2番目の改革

1782(天明2)年ころからはじまった農作物の不作による天明のききんは、全国に広がった。1786(天明6)年に大坂で大きな打ちこわしが起こり、日本橋や京橋でも打ちこわしが相次いだ。そこで登場した老中の松平定信は、「寛政の改革」を行った。

**松平定信**  
(1758~1829)  
白河藩(現・福島県)藩主として、ききんを乗り越えていた。



わたしは、実は徳川吉宗の孫です。がんばります。

改革が行われたのはここだ!



### 人々のためになった政策

**●職業訓練**  
よし!  
住む家や仕事のない人々を、石川島人足寄場に集め、仕事を覚えさせた。のちに、石川島人足寄場は、犯罪者を受容する場所になった。

**●食料不足対策**  
いい感じ。  
大火やききんによって人々が困らないように、地域ごとに米蔵をつくらせて、米をたくわえさせ、ききんに備えてお金を積み立てるようにした。

### 人々にきらわれた政策

**●学問の制限**  
どんなことやったの?  
昌平坂学問所(→p.56)では朱子学以外の学問を禁止して、ちがう学問を学ぶ人には、役人になる試験を受けさせなかった(寛政異学の禁)。

**●本の制限**  
トホホ……。  
江戸幕府のやり方を批判する本や、政治や社会をおもしろおかしく書いた本、風紀を乱すと考えられた本は、出版を禁止された(出版統制令)。

### 美しい庭園がじまんだった定信の別荘

政治家としては厳しい政策を行った定信だが、美しいものを愛する人でもあった。現在の築地市場辺りにあった邸宅を与えられた定信は、あれていた庭園を美しい名園に変えた。

**「浴恩園」の想像図**  
定信はこの別荘を、恩に浴する(めぐみを受ける)という意味をこめて「浴恩園」と名づけた。現代の借楽園(茨城県)のように広く美しい庭園だった。

季節ごとに見どころが40以上もあった庭園  
引退後、定信はここで和歌の会などを開いて楽しんだ。

## 制限だらけの3番目の改革

1833~1836(天保4~7)年にかけては、全国的な天候不順により、天保のききんが起こった。うえ死にする人が出て、百姓一揆や打ちこわしが数多く起こる世のなかを立てなおそうと、幕府は1841(天保12)年、老中の水野忠邦に改革を任せ(天保の改革)。

みんなぜいたくのしすぎなのじゃ!!  
がんばります。



**水野忠邦(1794~1851)**  
第12代将軍徳川家慶に信頼され、享保の改革と寛政の改革を手本に、政治を立てなおそうとした。

### 質素倹約のために 人々の楽しみを禁止した

ききんにより、物価は上がり、世のなかが乱れていたときに登場した水野忠邦は、ぜいたくをさせないことが、世のなかの安定につながると考え、人々の楽しみを次々と禁止していった(奢侈禁止令)。

**緑台将棋の禁止!!**  
そんなあ  
派手な衣装や髪型をした人は、取りしまりを受けた。高価な着物や、げたを売る店もばっせられた。

**両国花火の禁止!?**  
えー!  
1842(天保13)年には、竹ついで花火をあげてはいけないと御触を出し、両国の花火が打ち上げられなかった。値段の高い花火をすること禁止した。

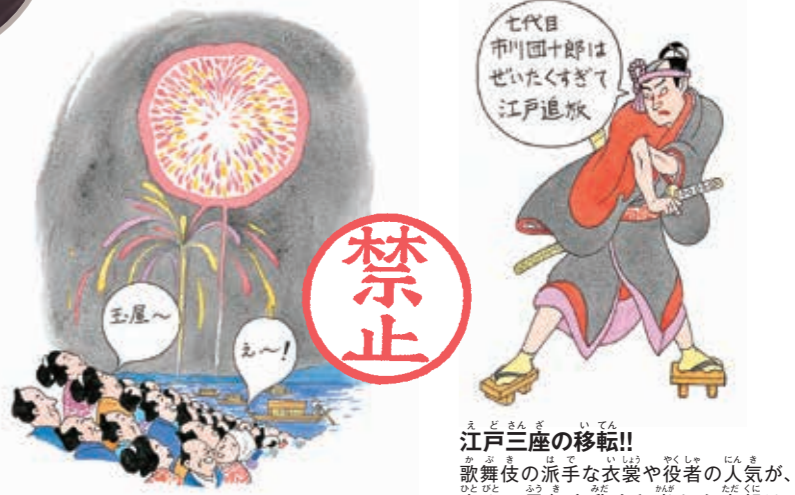
**豆腐の大きさまで決められた!?**  
おまけ  
初ものや、すしを高く売り買いはいけないという御触や、豆腐の大きさを決める御触まで出された。

**寄席を閉じた**  
入場料が安く、商人や職人が気軽に楽しめる場所が寄席だった。1830(天保元)年ころには125軒あったといわれる江戸の町中の寄席が、15軒を残して閉鎖された。

**人々の暮らし**  
寛政の改革と天保の改革のあいだは、江戸後期の文化が最も華やかな時代だった。貨幣が広く行きわたって町人も豊かになり、人々は、めずらしいものを買ったり旅行を楽しんだ。とくに、めずらしいアサガオの美しさを競ったり、ペットを飼うことが流行していた。



**天保のききんで苦しむ人々**  
天保のききんの大きな被害を見て、大坂町奉行所の役人・大塩平八郎は、苦しむ人々を助けようと、1837(天保8)年、打ちこわしを行った。役人が打ちこわしを行ったことは、江戸幕府にとって打げきだった。



**江戸三座の移転!!**  
歌舞伎の派手な衣装や役者の人気、人々の風紀を乱すと考えた忠邦は、1841(天保12)年、中村座と市村座を浅草猿若町に移転させた。のちに森田座も浅草に移転し、中央区から芝居小屋はなくなった(→p.62)。

